

【小坂町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

Society 5.0においては、人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が教育や学びの在り方に変革をもたらすことが想定される中、日常生活の様々な場面でICT（情報通信技術）を用いることが当たり前となっている子供たちは、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な資質としての「情報活用能力」を身に付け、情報社会に対応していく力を備えることがますます重要となっています。

新学習指導要領及び「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月中央教育審議会答申）等の内容及び政府の議論においても、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて実現を目指す学びの姿が示されています。

こうした状況を踏まえ、当町といたしましても小坂町教育推進大綱が掲げる町の特色を活かした教育活動を展開しながら、小中一貫教育を推進し、「生きる力」と「ふるさとを愛する心」をもった児童生徒の育成に向けて、確かな学力の育成に引き続き取り組んでまいります。

2. GIGA第1期の総括

国のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度に1人1台端末を整備し、教科や学習場面に応じて、情報の収集・理解・整理・発信・共有のツールとして活用するとともに、令和3年度以降毎年ICT支援員を配置することで、教職員や児童生徒の学習活動のサポート体制を確保してきました。

その後も、通信環境の改善を目的に無線LAN機器等の導入を始め、学校現場のニーズに呼応したタッチペンの配布や、有用と判断した教材ソフトを授業で効果的に活用してきました。

また、学校の臨時休業時におけるオンライン学習実施に際し、自宅等にWi-Fi環境がない児童生徒を対象に無償貸出用のWi-Fiルーターの購入や電子黒板を導入するなど、端末と通信ネットワーク環境の整備構築を推進してきました。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

現在使用中の端末は、導入から5年が経過し、バッテリー駆動時間や処理速度の低下による授業への支障が生じる場面が想定されることから、引き続き、1人1台端末を維持すべく、適切な時期に教職員及び児童生徒用端末を更新します。

なお、端末の更新に当たっては、学校現場における現行端末の課題等を把握するとともに、教職員の人事異動による端末操作の負担軽減を図るため、近隣市町村の導入状況も考慮したうえで機種選定に努めます。

また、1人1台端末を積極的かつ効果的に活用するうえで、教員における指導力向上は必要不可欠です。そのため、端末の操作方法等の習熟度に個人差が生じ、授業への活用レベルの差に繋がらないよう、ICTに関する研修を計画的に実施します。

引き続きICT支援員を配置することで、ICTを活用した授業等教員がスムーズに行える環境を維持します。

さらに、当面の間は従来の紙の教科書を併用した上で、必要に応じて学習者用デジタル教科書の段階的導入に向け、校内及び学習内容で1人1台端末を活用する機会を増やし、情報活用能力の育成に取り組んでいきます。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

1人1台端末を効果的に活用し日々の学習課題に取り組むことで、児童生徒一人ひとりの特性や理解度、学習進度に合わせた個別最適な学びを推進します。

また、児童生徒が自らの考えを取りまとめ、発表や表現をする場合や、教職員と児童生徒または児童生徒同士がやり取りする等の授業場面に応じた端末の活用に努めるとともに、協働的な学びの充実を図ります。

(3) 学びの保障

希望する不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒等、様々な困難を抱える児童生徒に対する学びの保障を実現するため、その実態に応じて1人1台端末を活用した授業への参加や視聴機会の提供について検討します。